



S.Naka

THE KOKURA SUMMER JUMP

第26回 小倉サマージャンプ (J・GⅢ)

1着 2着 3着 4着
本賞 29,000,000円 12,000,000円 7,300,000円 4,400,000円
付加賞 210,000円 60,000円 30,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳以上、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 3歳58^{kg}・4歳以上60^{kg}、牝馬2^{kg}減、J・GⅠ競走1着馬2^{kg}増、J・GⅡ競走1着馬1^{kg}増

2024.8.24 中京 晴・良 芝3300m (混合)

着順	馬番	馬名	性別	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	平均 1ハロン	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師
1	⑤	ロスコフ	牡	6	60	草野太郎	3:33.5	2-2-2-1	12.9	504(+2)	1.8①	久保田貴士(美浦)
2	⑥	ニューツーリズム	騾	8	60	伴 啓太	5	1-1-1-2	13.0	510(-8)	7.6④	黒岩陽一(美浦)
3	④	メイショウハチク	騾	10	60	森 一馬	大差	5-5-5-5	13.4	470(-12)	46.9⑤	安達昭夫(栗東)
4	①	ヴィジュネル	牡	6	60	中村将之	5	4-4-4-4	13.4	482(-4)	2.6②	渡辺薫彦(栗東)
中止	③	トゥルボー	牡	8	60	石神深一		2-2-3-3		518(+4)	5.4③	小笠倫弘(美浦)
取消	②	ホッコーメヴィウス	騾	8	60	小牧加矢太						清水久詞(栗東)

単勝⑤180円(1^{kg}) 複勝⑤110円(1^{kg}) ⑥190円(4^{kg}) 枠連：発売なし
馬連⑤-⑥530円(3^{kg}) ワイド⑤-⑥200円(2^{kg}) ④-⑤870円(7^{kg}) ④-⑥1,030円(9^{kg})
馬単⑤-⑥650円(3^{kg}) 3連複④-⑤-⑥2,140円(8^{kg}) 3連単⑤-⑥-④7,940円(26^{kg})



上り1マイル：1:42.7 上り：800^{kg} 600^{kg}
50.4 - 38.1

アラカルト

- ・草野太郎騎手は小倉サマージャンプ初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算4勝目
- ・久保田貴士調教師は小倉サマージャンプ初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算11勝目
- ・オルフェヴル産駒はJRA重賞通算30勝目
- ・6歳馬の勝利は23年テオスコラテスに続く通算11回目
- ・5頭立てのJRA重賞競走は89年新潟3歳S以来35年ぶり、通算3回目(84年のグレード制導入以降)
- ・関東馬の勝利は初
- ・ホッコーメヴィウスは疾病(左前肢挫創)のため出走取消
- ・トゥルボーは競走中に疾病(左前肢跛行)を発症したため2周目5号障害(ハードル)飛越後に競走中止

牡 鹿毛 2018.2.6生
北海道安平町 追分ファーム生産
馬主・吉田晴哉氏 美浦・久保田貴士厩舎
馬名意味・美しい海があるフランスの港町。母名より連想

ベルビアノUSA系 F20

オルフェーヴル 栗毛 2008	ステイゴールド 黒鹿毛 1994	サンデーサイレンスUSA ゴールドンサッシュ
	オリエンタルアート 栗毛 1997	メジロマックイーン エレクトロアート
ベルブラージュ 鹿毛 2011	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
	ベルフィーチャー 鹿毛 2004	アグネスタキオン ベルクラシック

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA S3×M4
ノーザンテストCAN S4×S5

INTERVIEW

平沼敏幸 厩舎長(追分ファームリリーバレー)

今後も楽しみです

育成時からいい雰囲気のある馬でした。気性の難しさもあって良化には時間を要しましたが、障害で頭角を現してくれたのは嬉しい限りです。前走の内容が良かったですし、今回は少頭数となったこともあり、勝ち負けのレースを期待していました。飛越はまだまだ上手くなってもらいたいところですが、平地の脚がしっかりとしているので、今後も楽しみです。

Photostud



平地時代に3勝をマークした本馬は昨年秋季に障害入り。転身初戦を勝ち上がった後もオープンで好走を重ね、初めて重賞に挑戦した6月の東京ジャンプSではジュニオンペロシティと熾烈な一騎打ち(クビ差の2着)を演じた。2カ月の休養を挟んで臨んだこの日は一枚上の脚力と飛越力を存分にアピール、入障6戦目で初のタイトルを手中に収め、暮れの大一番の新星に名乗りをあげた。

父オルフェーヴル

北海道白老町 ㈱社台コーポレーション白老ファーム生産 中央、仏21戦12勝(日本ダービー^{G1}、皐月賞^{G1}、菊花賞^{G1}、有馬記念^{G1}2回、宝塚記念^{G1})、年度代表馬、最優秀3歳牡馬、最優秀4歳以上牡馬2回、14年から供用〔代表産駒〕エポカドーロ(皐月賞^{G1}、日本ダービー^{G1}2着)、ラッキーライラック(大阪杯^{G1}、エリザベス女王杯^{G1}2回、阪神ジュベナイルフィリーズ^{G1})、ウシュバテソーロ(ドバイワールドC・首^{G1}、東京大賞典^{G1}2回、川崎記念^{JpnI})、マルシュロレーヌ(BCディスタフ・米^{G1})、ショウナンナデシコ(かしわ記念^{JpnI})、オーソリシティ(青葉賞^{G2}、アルゼンチン共和国杯^{G2}2回、ジャパンC^{G1}2着)、アイアンバローズ(ステイヤーズS^{G2})、オセアグレイト(ステイヤーズS^{G2})、シルヴァーソニック(ステイヤーズS^{G2})、ショウリュウイクゾ(日経新春杯^{G2})、ジャスティン(東京盃^{JpnII}、カペラS^{G3})、ソーヴァリアント(チャレンジC^{G3}2回)、ライラック(フェアリーS^{G3})、他に重賞勝ち馬多数

母ベルブラージュ

北海道安平町 追分ファーム生産 中央25戦3勝

ロスコフ 本馬(18 牡父オルフェーヴル)中央20戦3勝、障害6戦2勝(小倉サマージャンプJ^{G3}、東京ジャンプS J^{G3}2着)

獲得総賞金110,446,000円

ノブオートーケン(19 牡父フェノメノ)地方38戦2勝

ホウオウブラージュ(20 牝父ハービンジャーGB)中央2戦0勝、地方21戦4勝

オベラブラージュ(21 牝父ニューイヤーズデイUSA)中央3戦1勝 ㊟

グランドブラージュ(22 牝父シニスターミニスターUSA) ㊟

(23 牝父ナダルUSA)

(24 不受胎)

祖母ベルフィーチャー

北海道三石町 追分ファーム生産 中央3勝。17年用途変更

ベルブラージュ(11 前出)

ベルリラ(15 牝父ノヴェリストIRE)中央0勝、地方14勝

ベルロビン(16 牝父ワークフォースGB)地方6勝

曾祖母ベルクラシック

北海道白老町 追分ファーム生産 中央1勝。16年転売不明

ベルフィーチャー(04 前出)

ケイアイカイト(08 牝父シンボリクリスエスUSA)中央2勝(フィリビントロ

フィー)、地方0勝(兵庫ジュニアグランプリJ^{G3}II 3着)

ヒロノセンギン(16 牝父ベルシャザール)中央2勝、地方1勝

一枚上の脚力と飛越力で重賞初制覇

タスキコース、固定障害の小倉から順回り、置き障害の中京へ移設された今年の小倉サマージャンプは、暑熱対策のため昨年と同様、午前11時20分発走の第4競走として行われた。障害重賞を4勝と断然の実績を誇るホッコーメヴィウスが当日に出走を取り消し、5頭立てで争われたレースは東京ジャンプS2着のロスコフと、障害重賞初挑戦の新星ウィジュネルが人気を二分。2頭の明暗は大きく分かれ、大差の4着に沈んだウィジュネルを尻目にロスコフがワンサイドの圧勝劇を演じ、重賞ウイナーの仲間入りを果たした。

ホッコーメヴィウスの取り消しにより、確たる逃げ馬も不在となったレ

ス。2コーナーの発走地点からゲートが開くと、出脚に優ったロスコフがまずは先頭へ立ちかけたものの、ニューツーリズムがこれをかわし、主導権を握る。中京で行われた2021年の阪神ジャンプS以来、約3年ぶりの勝利を目指すトゥルボーが2番手につけ、いったん位置を下げたロスコフの草野太郎騎手は1周目のスタンド前でその外に接近。暑さの影響か、本来の行きつづりを欠いたウィジュネルは4番手を進んだ。

2周目の向正面で後続を大きく引き離れた前の3頭のうち、トゥルボーが脱落(最後の直線で競走を中止)した3コーナーからは、同じ勝負服の2頭が勝利を争う形勢に。とはいえ4コーナーのハードル障害を飛越後、楽な手応えを保ったまま前に出たロスコフは直線の2つの障害も無難にクリア。2着に粘り込んだニューツーリズムに5馬身差をつけてゴールに飛び込んだ。

平地時代に3勝をマークした本馬は昨年秋季に障害入り。転身初戦を勝ち上がった後もオープンで好走を重ね、初めて重賞に挑戦した6月の東京ジャンプSではジュニオンペロシティと熾烈な一騎打ち(クビ差の2着)を演じた。2カ月の休養を挟んで臨んだこの日は一枚上の脚力と飛越力を存分にアピール、入障6戦目で初のタイトルを手中に収め、暮れの大一番の新星に名乗りをあげた。